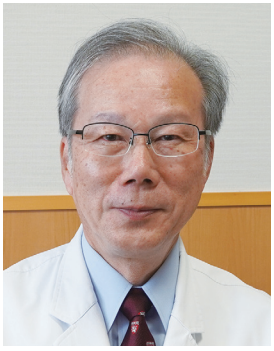
和歌山ろうさい病院広報誌

わろうて

～わかやまろうさい病院からのおてがみ～

和歌山ろうさい病院
副院長　若﨑　久生



小暑の頃、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

本日は、しばしば話題に上る人工知能（AI）と医療とのかかわりについて考えてみたいと思います。

特段に意識して使うつもりでなくてもAIが日常生活に関わっていることが近頃増えていると感じています。文章、会話、画像などをAIが新たに作成する、生成AIの利用が特に拡大しています。医療現場における生成AIの活用に関しては、特にカルテや診断書といった文章作成の自動化が注目されています。過酷な労働環境にある医療従事者の負担軽減が期待される一方、生命の安全や倫理の観点から慎重な議論が必要とされています。

AIが有用な点として、第一に医療従事者の業務効率化が挙げられます。医師の過重労働は社会問題であり、その多くを書類作成などの事務作業が占めています。AIが診療録や他院への紹介状を迅速に作成できれば、事務負担は激減するでしょう。第二に患者に接する時間の確保です。AIが記録業務を代替することで、医師は患者の診察や説明に、より多くの時間を割くことが可能になります。第三に医学研究の発展です。膨大な医学論文の要約や多言語での論文執筆支援により、最新の知見が世界中に迅速に共有される結果となります。

一方で、医療という特別な領域ゆえの問題点も指摘されています。最大の懸念はハルシネーション（幻覚：AIが作り出す、偽情報に基づくもっともらしい嘘）による医療事故のリスクです。一般的な文章とは違い、医療における薬の用量や症状のわずかな誤表記は、患者の健康や生命を直接脅かす可能性があるため人間による厳密なファクトチェックが不可欠です。次に患者の個人情報保護とセキュリティの問題があります。極めて機密性の高い病歴や遺伝情報をAIに入力する際のデータ漏洩リスクは完全には排除できません。さらに責任の所在の不透明さも挙げられます。AIの記述誤りに気付かず不適切な医療行為が行われた場合、その責任は現状ではAIに負わせることはできないでしょう。

結論として、医療分野におけるAIの文章作成は、深刻な人手不足を解消する強力な手段であると同時に、扱いを誤れば致命的な結果をもたらす危険性を併せ持っています。したがってAIの圧倒的なスピード・処理能力と人間の高度な専門知識・倫理的責任を組み合わせ、お互いの弱点を補い合う運用体制が必要となります。このようにAIを単なる全自動ツールとして妄信するのではなく、人間が主導権を握り続けること（Human-in-the-loop）でAIは真に医療の質を高めるパートナーとなり得る可能性もあるのです。

当院ではAIはまだ導入されていませんが今後さまざまな領域で新たな手段を用いて地域医療機関と密接に連携しつつ地域のみなさまに最適な医療を提供できるように努力してまいりますので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

日本医療機能評価機構認定病院
地域医療支援病院

独立行政法人労働者健康安全機構
和歌山ろうさい病院

〒640-8505 和歌山県和歌山市木ノ本 93 番 1
TEL.073-451-3181（代）　FAX.073-452-7171（代）・073-451-3788（地域連携室専用 FAX）
E-mail.soumu@wakayamah.johas.go.jp　URL.https://www.wakayamah.johas.go.jp/

和歌山ろうさい病院の理念　地域の人々と勤労者に、地域医療機関と密接に連携しつつ、安全に十分配慮した最適な医療を提供する。

リハビリテーション科の紹介

「艱難汝を玉にす」よく知られた諺だが、これは英語ないしはフランス語の諺の翻訳と言われている。リハビリテーションという言葉はラテン語由来の「re」+「habilis」で「再び人間らしく生きる」という意味だ。すなわちリハビリテーションの本来の意味は「障害のない状態に戻す」ことではなく、「障害があっても人として尊厳を持って生きていけるようにしていく」ということになる。この意味でジャンヌダルクが異端者として死刑となったのち、名誉の回復のために行われた裁判もリハビリテーション裁判と呼ばれる。

リハビリテーション科は常勤医1人、セラピスト21人体制で診療を行っています。300床を超える急性期病院の規模から考えるとかなり小規模と言えます。そのためリハ治療を必要としている方々に十分な治療を提供できていない状態が続いており皆様には大変ご迷惑をおかけしていると思います。

リハビリテーション治療とは単独で力を発揮できることは少なく、他科との連携・協力にてその力を発揮できるものと考えています。我々単独では骨折治療、がん治療、肺炎治療、胆管炎治療など行うことができません。しかし他科が各々の領域の力を発揮してそれぞれの治療を行なった後であればその効果を何倍にも高めることができます。医療従事者の目標はアプローチに違いはあるものの、つまるところ治療を必要としている患者様に治療を提供し再び人間らしい生活を取り戻してもらいたいということに尽きると思います。

私自身まだまだ未熟であり、セラピストも経験不足・実力不足が否めないところがありますが、それはそのまま成長の余地があるとも考えることができます。皆様にご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、私もセラピストもこれから多くの艱難を経験し、それを糧に必ず成長していく所存です。これは将来、他科の皆様にとっても大きな力になることができるということです。難しい症例でも構いません。積極的に我々に艱難を経験させていただければ幸甚です。診療報酬の面でもリハビリテーション治療が病院に果たす役割は大きくなってきており、当院でも大きな変革が必要な時期に来ていると感じています。今後数年はリハビリテーション科が当院にとって必要不可欠な領域になり得るかどうかの試金石となると思います。

前任者から交代したばかりでまだまだ不慣れであり、今後もご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、リハビリテーション科を何卒よろしくお願いいたします。

診療情報管理室の紹介

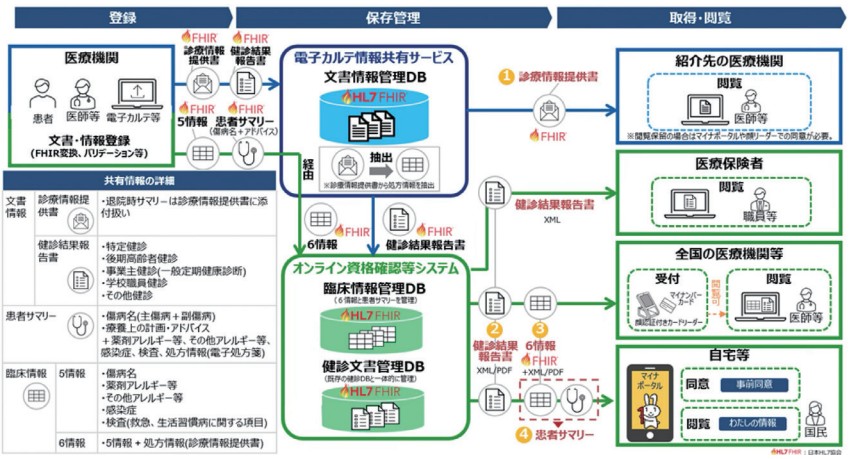
診療情報管理室　河田　泰明

香川から和歌山に転勤して5年を過ぎた2008年診療情報管理室に異動となりました。当時は紙のカルテ（診療録）でしたが、2015年に電子カルテが導入され、業務内容が変化してきました。読めない字がなくなったことに感動し、変換誤りに頭を悩ませながら、2023年の電子カルテシステムの更新を乗り越えて今に至ります。

当院では診療録管理体制加算の施設基準届出をしており、診療情報管理士の資格を持った専任常勤の診療記録管理者を配置しております。主な業務としては医師が記載した退院時要約をICD-10[※1]等でコーディングする業務や、DPCコーディング、クリニカルパス使用率の算出、電子カルテ内の記録の点検、各部門から依頼された資料の作成等があります。

2026年6月の診療報酬改定では、保険診療の施設基準の中にAI使用が追加され、医師事務作業補助体制加算では「生成AIを活用し、退院時要約、診断書及び紹介状等の原案作成を自動的に行い、当該業務を大幅に効率化する医療文書等の文書作成補助システム」等を導入している場合は、人員配置基準の柔軟化が可能となりました。さらに、マイナ保険証、電子処方箋、電子カルテ情報共有サービス[※2]といった医療DXが推進されていますが、電子カルテを導入した病院がサイバー攻撃の標的となり、長期間の診療停止になる報道も増えてきています。

医療分野においてもAIが活用される時代となり、現在の診療情報管理室の業務については将来的にAIに代替されることがそう遠くない未来に実現しそうです。時代の変化に対応できる診療情報管理室を目指して学び続けていきたいと思います。4月から脳神経内科の中西一郎先生を診療情報管理室の室長に迎えております。よろしくお願いいたします。



（出典：厚生労働省「電子カルテ情報共有サービス」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/johoka/denkarukyouyuu.html）

※1ICD（国際疾病分類）とは、正式名称を「疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems」といい、疾病、傷害及び死因の統計を国際比較するためWHO（世界保健機関）から勧告された統計分類で、ICD-10はICDの第10回改訂のことです。※2電子カルテ情報共有サービス

「かかりつけ医」のご紹介

和歌山ろうさい病院との「病診連携システム」に参加されている「かかりつけ医」の先生方をシリーズでご紹介しています。

ほんだ整形外科

診療科目　整形外科・リハビリテーション科
住　　所　〒640-8423 和歌山市松江中二丁目5番71号
電　　話　073-456-1122

院長　本田（ほんだ）　高幹（たかき） 先生

ほんだ整形外科は2025年12月1日に開院されました。「100歳を超えても自分の足で歩ける身体づくり」を理念として、整形外科専門医である本田先生が患者様一人ひとりの症状に合わせた診療を行っておられます。

特に力を入れておられるのが骨粗鬆症に対する診療です。骨粗鬆症外来として、診断・治療・生活指導を実施されており、診断の要となる骨密度測定（DXA法）による正確な測定検査を院内で実施している点を大きな特徴として掲げられております。

またスポーツ認定医・スポーツドクターでもある本田先生のもとにはご高齢の患者様だけでなく、スポーツで怪我をされた学生さんも多く来院されているとのことで、幅広い年齢層の患者様が通院されております。

和歌山ろうさい病院が今後も地域医療を提供し続ける上で、欠かすことのできない重要な連携協力医療機関（パートナー）です。

		月	火	水	木	金	土	日
ほんだ整形外科 診療時間	午前（9時～12時）	○	○	○	休	○	○	休
	午後（15時～19時）	○	○	○	○	○	○	休

※休診日：日曜・祝日、9：00～12：00/15：00～16：30は無料送迎を行っています。